

## ⑤ソーラー商店街の形成

②、③および④のしくみを活用し、市内の商店街に、普及啓発を兼ねたソーラー外灯などの導入を進めたり、商店への太陽光発電システム導入を推進します。話題づくりにとどまらず、非常時の電源確保など実用的な効果もあります。独立型のソーラー防犯灯は、停電時でも点灯しますし、災害時に携帯電話などの充電機能を持たせることも可能です。太陽光発電システムを防災用に活用している例も実際にあります。

## ⑥太陽光発電電力供給安定化の検討

太陽光発電は昼夜や天候による発電量の変動が大きく、出力が不安定です。導入出力が増えることにより、電力系統への影響も大きくなるため、その安定性を確保するための検討を進める必要があります。具体的にはバックアップ電源の確保（コジェネレーションシステムなど）、蓄電技術、電力系統との安定的な連系システムなどです。これらを組み合わせたマイクログリッドシステム（巻末資料参照）も検討する必要があり、その調査・実証的導入を進めることも必要です。

### （3）2010（平成22）年以降の施策

#### ①住宅・事業所への設置拡大

この時期になれば、前期間の施策によって価格低下や技術的な課題克服が期待されるので、戸建住宅はもちろん、集合住宅や事業所などの比較的大型のシステムも普及が進むと考えられますが、公共の集合住宅については、建て替え・回収時期に合わせた計画的な導入を進めることも重要です。

#### ②新たな設置方法や次世代、次々世代太陽電池の実証導入

都市部では屋根面積や日照などの条件から、良好な設置場所に限界があります。設置可能場所の制約を乗り越えるためには、屋根・屋上だけでなく、ビルの壁面などにも設置する必要があるでしょう。将来的には太陽電池の発電効率の向上と価格の低下が期待できるため、こうした設置方法による導入を進めることも考えられるでしょう。また、現在開発が進められている化合物型、色素増感型など新たな技術による太陽電池やシステムの実用化により、壁面や窓、ブラインドなどこれまでと異なる設置場所や設置方法が可能になると期待されており、そうした新型太陽電池の実証的な導入も進めていく必要があります。

集合住宅の壁面に太陽光パネルの